

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
99.8.9 No. 5001

各地で動労千葉を支援する会集会開催

国鉄闘争の勝利誓い合う



【関西】 支援する会

七月二一日、「動労千葉を支援する関西集会」が関西各地から六〇名のたまたかう仲間を結集して開催された。会場は昨年十一月集会をともに呼びかけた港合同の敷地内にある直営ビュレストラン「地底旅行」、地ビールを飲みかわしながら動労千葉二十年の闘いにあつい想いをよせる関西の支援者との交流を深めた。

集会は国賀泉佐野市議の司会ですすめられ、冒頭、主催者を代表して永井満関西実行委代表からあいさつをいただいた。永井氏は故関川初代委員長を忍ぶ会にあてたメッセージを読み上

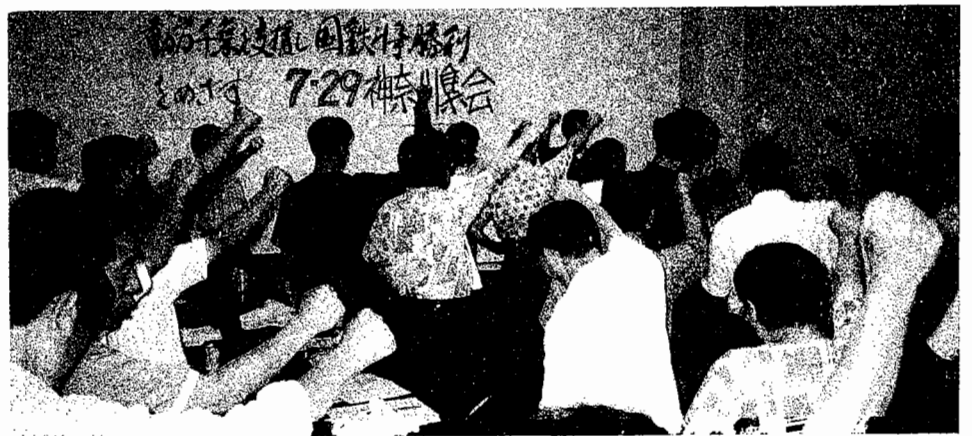
げ、「関川さんからいただいた汗のしみたナツパ服をみるたびに、わが心はこの服を着て闘い続けるのだと決意を新たにすると、ともに闘う決意が述べられた。

動労千葉から布施副委員長が参加し支援基金や物販闘争へのお礼と闘いの報告を行なった。とりわけ今日の国鉄情勢、国労をめぐる動きについて、一〇四七名の原地原職奪還の闘いを守りぬくこと、国労三万が潰れないことこそが勝利の展望を切り開くと提起した。

支援する会事務局から会計報告と会員拡大の方針提起が行なわれ、父親が動労の組合員だったという白石関西実行委世話人の乾杯の音頭につづき、関西の国労の仲間から八月国労大会にむけた決意が、動労総連合の仲間から革マルJ.R総連合体への決意が述べられた。

さらにス労自主の上村副委員長、被災地雇用と生活要求者組合の長谷川代表をはじめ、関西合同労組、大高教、婦人民主クラブ全国協から連帯のあいさつと闘いの報告、決意が述べられた。また港合同・辻岡執行委員からも「十一月東京で合いまみえましょう」との訴えがなされた。

最後に関西合同労組・宮武書記長が閉会あいさつを行い、国鉄闘争の勝利を軸に大失業と戦争の時代に抗する新しい労働運動をつくりだすこと、そのためにも支援する会運動を進展させることを誓い合いあった。



【神奈川】 支援する会

七月二九日、横浜・神奈川公会堂において「動労千葉を支援し、国鉄闘争の勝利をめざす神奈川集会」が神奈川県下の支援する会会員、闘う仲間五〇名を結集して行なわれた。

集会は三浦半島教組の二本柳氏の司会で開会、冒頭、呼びかけ人を代表して、自治労横浜の庄山正氏から開会のあいさつをうけ、連帯のあいさつとして北海道の闘争団の仲間からあくま

で原地原職奪還に向けて闘いぬく決意が述べられた。

集会のメインは中野委員長の一時間半をこえる「国鉄闘争の現局面と展望」と題した講演。中野委員長は、昨年五・二八反動判決以降の国鉄闘争、とりわけ国労をめぐる攻防について分析しながら、五・二四ガイドライン法成立後の大反動攻勢、大失業攻撃というとりまく情勢の中で国鉄闘争の位置の大きさを見据え、勝利の展望を「迷ったら原点にかえれ」「敵の弱点を見据えること」「時代認識をはつきりさせること」「あくまで現場組合員に依拠して闘うこと」などのなかにあることを明らかにした。そしてもうひとつの国鉄決戦として結成二〇周年をむかえた動労千葉の闘いに対する支援を訴えた。

支援する会事務局の方針提起につづき、参加者から川崎市職労と国労の仲間から闘いの報告さらに民間の闘う仲間から職場で新たに支援する会運動を組織する決意が述べられ、支援する会運動の拡大をとおして国鉄闘争の勝利とあらたな労働運動の潮流づくりのために奮闘することを誓い合い集会を終了した。

